（案）

令和９年度

県営土地改良事業計画概要書

（農業用ため池整備事業）

Ⅰ　土地改良事業計画の概要

梅ヶ谷地区

筑 紫 野 市

Ⅰ　土地改良事業計画の概要

（農業用ため池整備事業）

梅　ヶ　谷　地　区

第１章　目的

本地区の梅ヶ谷池は、その築造年は不明であるが、古くからかんがい用のため池として利用されている。

堤体は、下流側法尻から漏水が確認されており、その漏水量は許容値を上回っている。また、堤体下流斜面は安定計算上安全率1.2以上を確保できておらず不安定な状態である。

取水施設は、老朽化により十分な機能を果たしておらず、緊急放流機能もないため、急な放水に対応することが出来ず堤体の安全性が確保出来ない。

さらに、洪水吐は断面不足であり、老朽化が進行している。

このため、本事業により施設の改修を行い、ため池決壊による被害の発生を未然に防止し、地域の安全性を確保するとともに、農業用施設としての機能を改善することにより農業生産の維持及び農業経営の安定化を図る必要がある。

第２章　地域の所在及び現況

（１）地域の所在

福岡県筑紫野市大字阿志岐

（２）現況

①　地形

福岡県の中央部に位置する筑紫野市。東西15.6キロメートル、南北14.1キロメートルに広がる市形は、蝶が羽を広げた姿に似ている。西が背振山系、東が三郡山系の一部をそれぞれ形成。平地は市域中央部に広がっており、中央部には平坦地ながらも分水嶺を抱え、御笠川・那珂川水系は北流し博多湾へ、宝満川水系は南流し有明海へそれぞれ注いでいる。

②　土質及び土壌

筑紫野市の地質・土壌は、東側の山地から西側の平野部にかけて多様な特徴を持っている。市域の多くは、背後の山地から供給された土砂や火山活動の影響を受け、山地部（宝満山・三郡山系など）は主に白亜紀の花崗岩で構成されている。御笠川上流域などの段丘部には、姶良火山灰を含む砂礫層が堆積している。また盆地や河川沿いの平坦地は、粘土、砂、礫からなる軟弱な沖積層で、水田などに利用される「灰色低地土」が見られる。

③　気象

筑紫野市は、温暖な太平洋側気候に属しながらも、冬場は日本海側気候の影響を受けやすい内陸部特有の性質を持っている。

降水量は年間を通じて湿度は高めで、特に梅雨時期や台風シーズンに降水量が増加する傾向がある。

④　水利状況

流域内に降った雨水を貯水し、現況の取水施設を使って下流側農地をかんがいしている。

⑤　営農状況

稲作を中心とした土地利用型農業が行われている。

⑥　地域環境の概況

筑紫野市は、福岡県中央部に位置し、東の三郡山系、西の背振山系に囲まれた自然豊かなベッドタウンであり、JR・西鉄の駅や国道3号が縦断する高い交通利便性を持ち、歴史ある二日市温泉や商業施設も充実。適度な都市機能と豊かな自然環境が調和した都市である。

第３章　基本計画

（１）計画の要旨

本事業により、堤体、取水施設及び洪水吐の改修を行い、ため池決壊による被害を未然に防止し、地域の安全性を確保するとともに、農業用施設としての機能を改善する。

（２）土地利用の現況及び計画

（単位：ｈａ）

地　目		田	畑	原野	山林	その他	計
面積	現況	5.5	—	—	—	—	5.5
	計画	5.5	—	—	—	—	5.5

（３）主要工事計画

工種	構造及び規格	数量
堤体工	堤高 H=9.80m、堤長 L=44.4m 堤頂幅 B=4.0m、傾斜遮水ゾーン型 波受工、基礎処理工	一式
取水施設工	斜樋(取水)　塩ビ管φ250㎜ 底樋　ＰＣ底樋管φ900㎜	L=15.0m L=44.0m
洪水吐工	側水路型　幅 B=7.90m	L=61.7m

（４）環境への配慮

・工事実施前及び工事実施中に希少動植物を発見した場合は、近傍の生息可能域へ移動する。
・工事実施時期は、ため池内の澪筋などを活用した生息・生育場所を確保する。その際、可能な限り、水深及び止水環境の確保に努める。
・工事実施後は、可能な限り速やかに、ため池の水位回復に努める。

第４章　工事又は管理の要領

（１）工事の要領

堤体は傾斜遮水ゾーン型にて施工し、上流側法面には浸食防止のため、波受工を施工する。

洪水吐は計画洪水量を流すことが出来る断面に改修し、併せて、取水施設も改修する。

（２）管理の要領

①　予定管理者

筑紫野市

② 管理すべき施設の種類

名称	位置	種類	備考
農業用ため池	筑紫野市大字阿志岐	堤体、取水施設、洪水吐	

③ 管理に要する費用及びその負担方法

管理に要する費用	負担方法
施設の維持管理、補修に必要な経費	筑紫野市及び地元負担

（3）工　期

令和9年度～令和13年度

第５章　換地計画の要領

該当なし

第６章　費用の概算

（1）事業費の概算

事業費	524,000	千円
事務的経費	36,000	千円
計	560,000	千円

（2）負担割合

（単位：%）

費用・区分	国	県	市	地元	備考
事業費	50	30	20	0	
事務的経費	0	100	0	0	

第７章　効　　用

（１）年総効果額

項目　　区　　分	年総効果額(千円)	年増加所得額(千円)
食料の安定供給の確保に関する効果	△ 57	5
維持管理費節減効果	△ 57	5
農業の継続的発展に関する効果	37,771	－
災害防止効果（農業関係資産）	37,771	－
農村の振興に関する効果	28,609	－
災害防止効果（一般資産）	28,609	－
多面的機能の発揮に関する効果	1,909	－
災害防止効果（公共資産）	1,909	－
計	68,232	5

（２）投資効率

項目　　区　　分	算　式	数　　値	
総事業費	③=①+②	431,351	千円
当該事業による費用	①	445,135	千円
その他費用（関連事業費+資産価額+再整備費）	②	△ 13,784	千円
年償還額	④	0	千円/年
うち機能向上分	④’	－	千円/年
年総効果（便益）額	⑤	68,232	千円/年
現況年総農業所得額	⑥	1,397	千円/年
年増加農業所得額	⑦	5	千円/年
評価期間(当該事業の工事期間+40年)		45	年
割引率		0.04	
総便益額（現在価値化）	⑧	1,413,744	千円
総費用総便益比	⑨＝⑧÷③	3.27	
総所得償還率	⑩＝④÷⑥	0.0	%
増加所得償還率	⑩＝④’÷⑦	－	%

第８章　他の事業との関係

該当なし

第９章　計画概要図

別紙のとおり

県営土地改良事業（農業用ため池整備事業）梅ヶ谷地区　位置図　　S=1/50,000

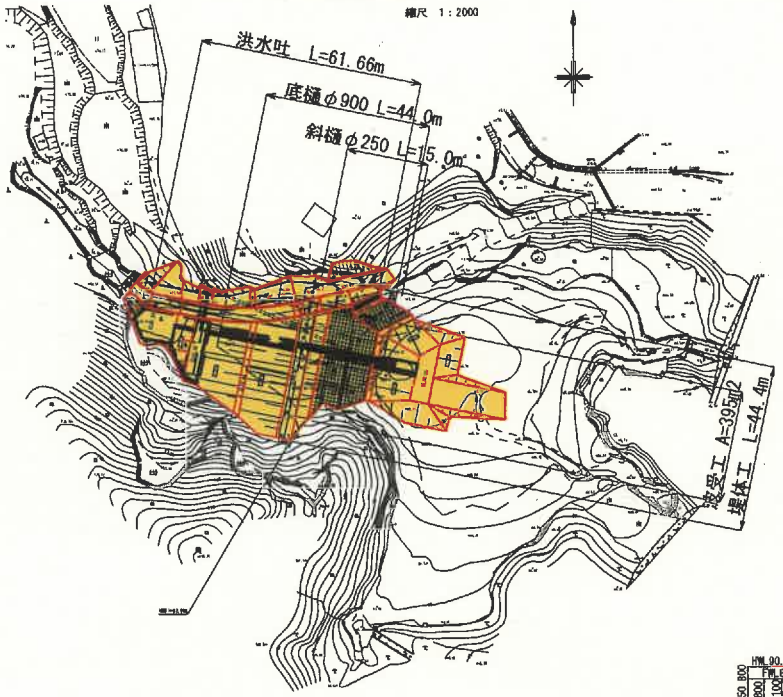




農村地域防災事業　梅ヶ谷地区　一般計画図

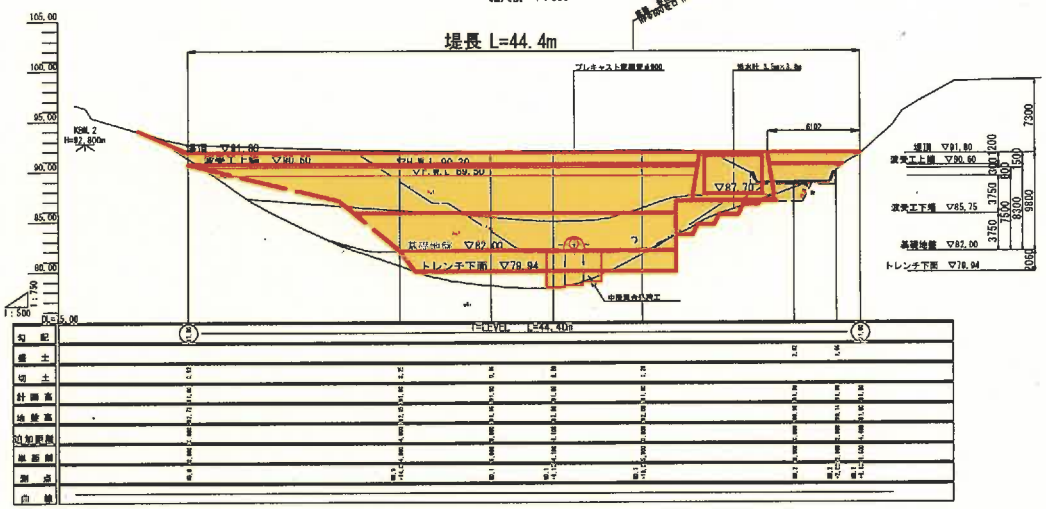
令和9年度新規採択希望

計画平面図



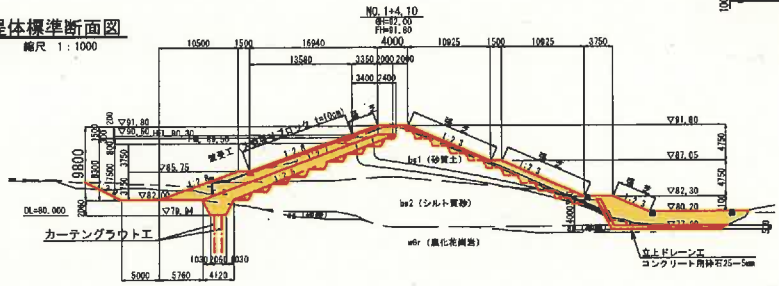
縦断図

縮尺縦　1：750
縮尺横　1：500



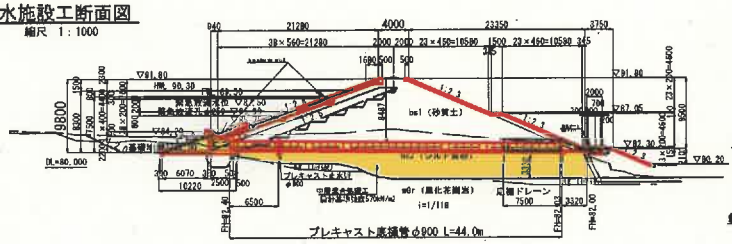
堤体標準断面図

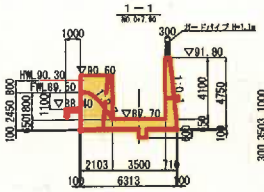
縮尺　1：1000



取水施設工断面図

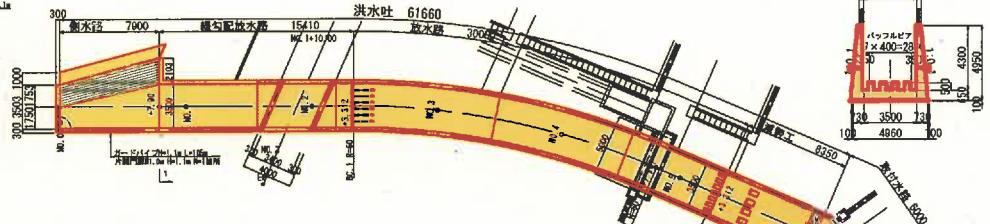
縮尺　1：1000





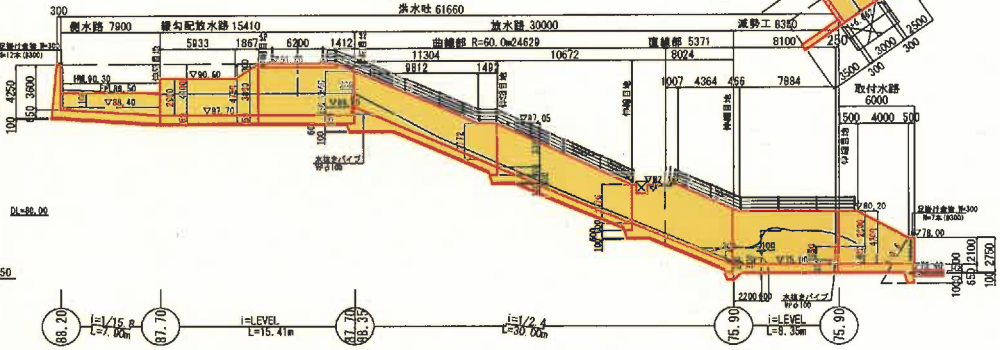
洪水吐平面図

縮尺　1：600



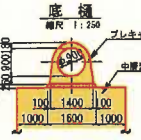
洪水吐縦断図

縮尺　1：600



底樋

縮尺　1：250



斜樋・階段

縮尺　1：250

